

令和7年度第2回 海岸工学委員会委員会議事録

開催日時：令和7年11月26日（火）18:05～19:55

開催場所：サンポート高松 国際会議場（対面）および Web（Zoom）によるハイブリッド会議

出席者（敬称略）：

【オンサイト】

岡安相談役，渡部委員長，田島副委員長，五十里，遠藤，安田，宮本，小野，川崎，久保田，鈴木一輝（岩前の代理主席），柴田，猿渡，山城，高川，李，内山，中村，馬込，大井，鈴木，織田，榎田，太田，保坂，宮武，入江，加藤史訓（川崎様の代理出席），嶋原，有川，下園，山中，荒木，澁谷，木原。

【web】松下，秋山，比嘉，多田，越村，門廻

議事録：福谷，原田

■ 前回議事録の確認：前回委員会の議事録（WEB 公開済）を確認した。

■ 第72回海岸工学講演会論文審査（山城，中村）

- ・ 山城委員より，2025 年度土木学会論文集特集号（海岸工学）について報告があった。登録論文数：271 編（過去5 年: 290, 219, 248, 258, 306 編），通過論文数：271 編（すべて海岸工学講演会で発表）。要旨の書き換えを求めるもの2編について説明された。
- ・ 論文発表審査に関する報告があった。査読者は計120名（昨年度：111名）。
- ・ J-STAGE 論文審査に関する報告があった。JSTAGE論文審査 本論文登録数：175 編，本論文登録なし：CEJ 7 編，CEJ 以外 88 編，未回答1編，J-STAGE論文審査結果 通過論文数：168 編（不採択7 編），今年度導入したEMでの論文受付時の問題について，EMの標題欄，投稿遅れ，査読依頼時，主査報告作成・審査結果通知時，修正原稿投稿・再査読時，最終原稿受理時，最終原稿投稿時に分けて報告があった。次年度へ向けての課題として，著者，査読者，主査がそれぞれ注意すべき点の報告があった。
- ・ 土木学会論文集編集委員会／編集調整会議の内容について報告があった。投稿者の異議申し立てに対応する仕組みについて紹介があった。通常号（英文）・特集号（英文）に関する今後の方針について説明があった。特集号（英文）については，2026年1月からJournal of JSCE Special Publicationとして発刊される説明があった。
- ・ 原田幹事長より，著者負担金と論文集DVD価格の検討，新EM導入費用，海岸工学論文賞・奨励賞の選考等について説明があった。

■ 第72回海岸工学講演会の準備状況について（山中）

- ・ 山中委員から，第72回海岸工学講演会の開催の状況が報告された。第72回海岸工学講演会では，前日シンポジウムは対面で150 名程度，オンラインは最大250名程度（同時接続数）の参加者であったことが報告された。また，11 月26 日時点で300 名超の参加者であったことが報告された。

■ 第73回海岸工学講演会の準備状況について（山城）

- ・ 山城委員から、第73回海岸工学講演会の準備状況について報告された。会期：2026年11月10日（火）～11月13日（金）、開催場所：大分県大分市、ホルトホール大分（予約済み）にて開催されることが報告され、また、実行委員会及び会場が紹介された。
- ・ 予算計画は、会場費見込みで総計1,072,200円。
- ・ 見学会の候補地として、大分港、別大国道フレア型護岸を検討している。
- ・ 懇親会（11月12日（木）18:30-20:30トキハ会館）は予約済みであることが報告された。
- ・ 会場の使用開始時刻が9時で、それ以前は準備でも使用できないため、第1セッションが9時に開始できない見込みであることが報告された。

■ 第74回海岸工学講演会の準備状況について（川崎）

- ・ 川崎委員より、第74回海岸工学講演会の準備状況が報告された。会期は、2027年11月9日（火）～12日（金）。開催場所：岐阜県、会場：じゅうろくプラザ（会場予約は2年前から）で開催予定。
- ・ 第1会場以外の会場が若干狭く、席数が少ないため、一部机を撤去して座席数を確保する予定。
- ・ 実行委員会のメンバーは、今後確定する。

■ 第60回水工学に関する夏期研修会（Bコース）開催について（山城）

- ・ 山城委員から第60回水工学に関する夏期研究会の開催状況について報告があった。
- ・ 参加者は、現地でAコース：53名、Bコース45名、オンデマンドでAコース：58名、Bコース43名の計199名であったことが報告された。また、研修会の収支が報告された。
- ・ 新しい試みとして実施した交流会の内容について報告があった。参加者10～20名で好評であった。
- ・ 各種アンケートの結果について報告があった。今後取り上げてほしいテーマとして、気候変動関連のテーマや実務に基づくテーマの希望が多かったことが報告された。

■ 第61回水工学に関する夏期研修会（Bコース）の準備状況について（榎田）

- ・ 榎田委員より、第61回水工学に関する夏期研修会（Bコース）の準備状況について報告された。テーマは「頻発・激甚化する流域・沿岸災害に関する調査・解析と防災を考える」（要検討）、開催日時は、2026年8月27日（木）、28日（金）、会場は、金沢大学角間キャンパス、開催形式は、対面＋オンデマンドであることが報告された。担当者は、Aコース：谷口（金沢大）、Bコース：榎田（金沢大）、由比（金沢大）。参加費は一般16,000円、学生10,000円（今年度同様）を予定。
- ・ 予定している講師と時間割について説明があった。講義題目の確定は3月を予定。

■ Coastal Engineering Journal について（内山）

- ・ 内山委員より、Coastal Engineering Journal について報告された。

- ・ CEJ編集小委員会メンバーのBruno Adriano先生がAssociate EditorからEditorになったことが報告された。
- ・ 2024年のIF が1.9となり， 去年と同様の数値であったことが報告された． Ocean Engineering系のJournalの引用が上がっていることが影響している可能性が報告された。
- ・ 2024年の被引用数は1,097（2023年：936）であり少し増加した。
- ・ Open Access の効果は， OA：34 編→68 被引用（2.0/paper）， 非OA：74 編→84 被引用（1.22/paper）， OA により被引用率が1.14→2.0：75%高くなっている。
- ・ 今年発表されたCEJ 論文， テクニカルレポートが紹介された。
- ・ The 2024 Noto Peninsula Earthquake Tsunami and Tsunamis in the Sea of Japan Region, 11/7現在， 10 編採択済み， 3編査読中であることが報告された。
- ・ CEJ Award関連， CEJ招待講演， Special Issue 2027の企画「CFD海岸工学（予定）」等について報告があった。
- ・ 田島副委員長より， 被引用数を上げるための取り組みについて， 公開論文のリストを cecomで告知してはどうかという意見があり， 今後検討することとなった。

■ 広報・出版小委員会（鳴原）

- ・ 下園委員が退任し， 五十里委員が就任， また， 伴野委員の新任について報告された。
- ・ Web 情報の充実に関して， 海岸工学関連の本の紹介（おすすめ書籍）， 海岸工学講演会関連， 海岸工学論文集データベース（更新終了）， 若手の会， 小委員会， 研究会の情報更新（随時）， 災害DB の順次補充， 海岸工学の魅力， 波浪や津波等の一般向け， サイト設定の修正， サーバー管理， ソフトウェアアップデートなど）を充実させていくことが報告された。
- ・ 講演会プログラムの作成状況について報告があった。

■ 海岸・海洋デジタルツイン研究小委員会（越村）

- ・ 越村委員より， 海岸・海洋デジタルツイン研究小委員会の活動について報告された。
- ・ 委員長：越村俊一， アドバイザ：森信人， 各WP（ワーキング・パッケージ）のメンバーで今年度から活動を開始した。
- ・ 2025年7月に第一回委員会を開催した。
- ・ 2026年のAOGSの企画セッション”IG33 Digital Twin Paradigms in Coastal Resilience”を開催予定であることが報告された。

■ 研究小委員会， 研究会， WGの活動について（事前送付）

- ・ 波動モデル研究会（事前送付のみ）
- ・ 波動と地盤の複合場における地盤材料の取扱方法に関する研究会（事前送付のみ）
- ・ 地域研究活性化WG（事前送付のみ）
- ・ 沿岸域研究連携推進研究会（事前送付のみ）
- ・ 沿岸域における気候変動適応策に関する研究会（事前送付のみ）

■ その他

省庁連携特命WG（田島）

- ・ 田島副委員長より、省庁連携特命WGの活動について報告があった。
- ・ 第3回海岸工学懇談会を2025年10月24日に中央合同庁舎にて開催した。今後、年1回程度で開催する予定。
- ・ 海岸関連人材強化プロジェクトの活動について報告があった。シードクター、検討会プラス1、河川砂防技術研究開発公募提案型課題（海岸）の新設、国交省職員の実力強化、直轄事務所担当者会議の新設、検討業務への学識経験者意見聴取を位置付け。

サーバーセキュリティ対策特命WG（川崎）

- ・ 川崎委員より、サーバーセキュリティ対策特命WGの活動について報告があった。
- ・ 海岸工学委員会サーバーの管理・運用方針について報告があった。
- ・ 海岸工学委員会HPのアップデート対応について報告があった。
- ・ 論文投稿・査読システムサーバー（旧）の扱い方について報告があった。年間維持費用が43,560円で、現在の利用期間は2026年2月28日まで。本サーバー（旧）の継続契約はしない方針となった。

海岸工学2040特命WG（川崎）

- ・ 川崎委員より、海岸工学2040特命WGの活動について報告があった。
- ・ 前日シンポジウム3で活動の内容を報告した。
- ・ 今後の予定（土木学会論文集通常号への投稿、科研費・学術変革領域研究（A）への申請）について説明があった。

第4回日中土木学会ジョイントシンポジウム+APAC（原田）

- ・ 原田幹事長より、第4回日中土木学会ジョイントシンポジウム（2026年9月開催予定）の開催について報告があった。
- ・ 水工主導で進め、海岸工学委員会としては可能な範囲で協力する意向を伝えた。
- ・ APAC2027は、2027年10月19日から22日に南京にて開催予定。アブストラクト受付は2026年末頃。Proceedings paperの出版は廃止（本論文の提出は無し）。アブストラクトは図を含めた2ページ程度のものに変更（ICCEと同様）、アブストラクトの査読結果から候補を絞り会議でのプレゼンテーションに基づいて賞を決定する。
- ・ APACのメンバーについて報告があった。

ICCE2028（原田）

- ・ 原田幹事長より、ICCE2028の開催について報告があった。
- ・ 2028年5月7日～12日、大阪国際会議場（10F・全フロア）（予約済み）で実施することが報告された。

■ 論文賞・奨励賞審査方法について（原田）

- ・ 原田幹事長より，論文賞・奨励賞の選考方法について，説明があった。
- ・ 採点ミス防止対策案について，評価方法をシンプルにする，また，幹事長の採点結果を委員長・副委員長が幹事会前に慎重に確認する，との提案があり，承認された。
- ・ 評価方法の改善案について，査読対象候補論文の抽出は，これまでと変わらず3名の査読者の採点によって決定し，賞の選考は同一審査員5名による採点結果のみを用いて同一基準で実施する（○による採点は廃止），との提案があり，承認された。それぞれ，審査項目として，新規性，独創性，有用性，完結性，信頼度の5項目とすることも確認された。
- ・ 賞選考のプロセスとして，1)審査員5名の総得点で優劣を決める，2)上記で決まらない場合，審査項目の満点の数によって優劣を決める，3)それでもさらに同順位の場合には5名の審査員で投票して優劣を決める，ことが提案され，承認された。
- ・ 山城委員より，「独創性」の項目を加えること，採点表示についてE M表示の修正について検討することが報告された。

■ 委員長候補選挙実施について（原田）

- ・ 原田幹事長より，委員長候補選挙実施の時期について，提案があった。
- ・ 選挙による委員長候補者の選出を11月に実施し，体制移行の円滑化と議論の充実を図ることが提案された。変更理由①として，区切りの良さ，変更理由②として，業務の集中を回避する，ことである。選挙を11月に実施することの是非，承認条件，表現について（次期委員長または委員長候補），内規の修正と加筆，実施する場合の具体的スケジュールについて提案があった。
- ・ 選挙を11月に実施する方針は承認された。具体的な選挙方法については今後審議することとなった。

以上